

令和2年度東京都障害者虐待防止・権利擁護研修

障害者虐待防止法の理解と 虐待防止の視点について

弁護士 関哉直人

講義のねらい

この時間は、障害者虐待防止法の全体像を知っていただくとともに、支援現場での事案を踏まえ、法の求める「虐待」の意味を理解し、日々の支援につなげていただくことを目標としています。

この講義を通じて知ってほしいことは、以下の3点です。

【ポイント】

- ① 虐待と「尊厳」「自立」「社会参加」
- ② 虐待と「意識」「環境」「専門性」
- ③ 「小さな出来事」と現場での共有

法律の概要

- 「家庭」「施設」「職場」
- 通報義務
- 養護者支援

目的(趣旨)

障害者に対する虐待が障害者の尊厳を害するものであり、障害者の自立及び社会参加にとって障害者に対する虐待を防止することが極めて重大であること等に鑑み、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に対する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資することを目的とする。

障害者虐待の内容

- ① 身体的虐待
- ② 性的虐待
- ③ 心理的虐待
- ④ ネグレクト
- ⑤ 経済的虐待

施設従事者等による虐待

- 一 障害者の身体に外傷が生じ、若しくは生じるおそれのある暴行を加え、又は正当な理由なく障害者の身体を拘束すること
- 二 障害者にわいせつな行為をすること又は障害者をしてわいせつな行為をさせること
- 三 障害者に対する著しい暴言、著しく拒絶的な対応又は不当な差別的言動その他の障害者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと
- 四 障害者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置、当該障害者福祉施設に入所し、その他当該障害者福祉施設を利用する他の障害者又は当該障害福祉サービス事業等に係るサービスの提供を受ける他の障害者による前三号に掲げる行為と同様の行為の放置その他の障害者を養護すべき職務上の義務を怠ること
- 五 障害者の財産を不当に処分することその他障害者から不当に財産上の利益を得ること

身体拘束の例

- ① 車いすやベッドなどに縛り付ける
- ② 手指の機能を制限するためにミトン型の手袋を付ける
- ③ 行動を制限するために介護衣(つなぎ服)を着せる
- ④ 支援者が自分の身体で利用者を押さえつけて行動を制限する
- ⑤ 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる
- ⑥ 自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する

身体拘束は原則許されない

<「正当な理由」の3要件>

- ① 切迫性
- ② 非代替性
- ③ 一時性

のすべての要件をみたす場合

<必要な手続き>

- ① 組織による決定と個別支援計画への記載
- ② 本人・家族への十分な説明
- ③ 必要な事項の記録

※ 身体拘束廃止未実施減算

早期発見義務

障害者福祉施設、学校、医療機関、保健所その他障害者の福祉に業務上関係のある団体並びに障害者福祉施設従事者等、学校の教職員、医師、歯科医師、保健師、弁護士その他障害者の福祉に職務上関係のある者及び使用者は、障害者虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、障害者虐待の早期発見に努めなければならない。

通報義務

障害者福祉施設従事者等による障害者虐待を受けたと思われる障害者を発見した者は、速やかに、これを市町村に通報しなければならない。

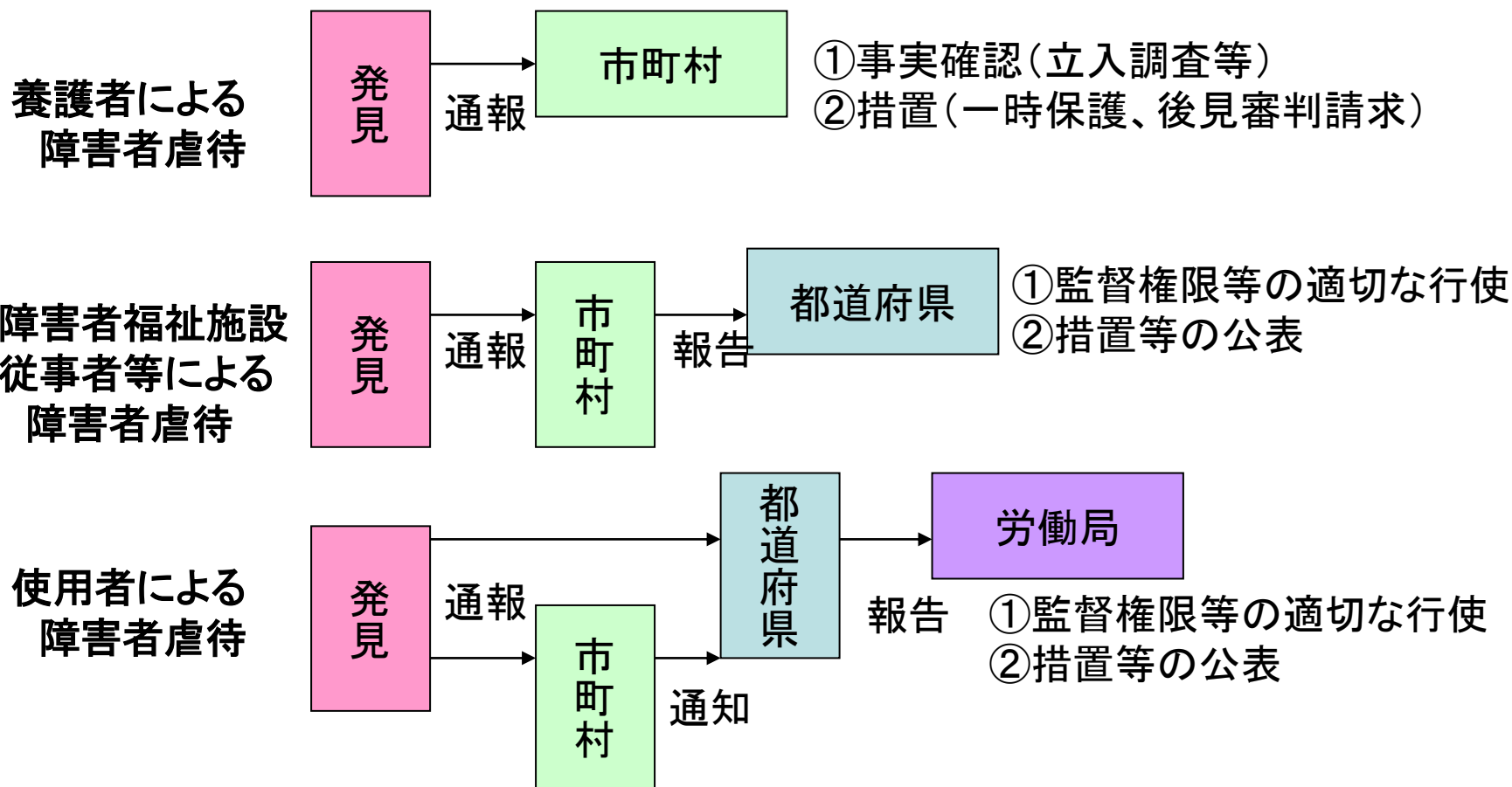
※ 障害者福祉施設従事者等は、通報をしたことを理由として、解雇その他不利益な取扱いを受けない。

通報者保護について

障害者虐待防止法施行後、虐待通報した職員に対して、施設側が損害賠償請求を行うという事案が発生しました。適切に通報した職員に対して、通報したことを理由に施設側から損害賠償請求を行うことは、適切に通報しようとする職員を萎縮させることにもつながりかねないものであり、通報義務や通報者の保護を定めた障害者虐待防止法の趣旨に沿わないものです。施設の設置者・管理者等は障害者虐待防止法の趣旨を認識するとともに、通報義務に基づいて適切に虐待通報を行おうとする又は行った職員等に対して解雇その他不利益な取扱いをすることがないよう、通報等を理由とする不利益な取扱いの禁止措置や保護規定の存在について理解を深めることが必要です。

（平成30年6月 厚労省「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き」より）

通報後のスキーム



窓口として「市町村障害者虐待防止センター」「都道府県障害者権利擁護センター」を設置

虐待防止のポイント

虐待の共通の構図

- ① 虐待は密室の環境下で行われる
 - ② 障害者の権利を侵害する小さな出来事から心身に傷を負わせる行為にまで次第にエスカレートしていく
 - ③ 職員に行動障害などに対する専門的な知識や技術がない場合に起こりやすい
- (障害保健福祉部長通知(平成17年10月20日)「障害者(児)施設における虐待の防止について」)

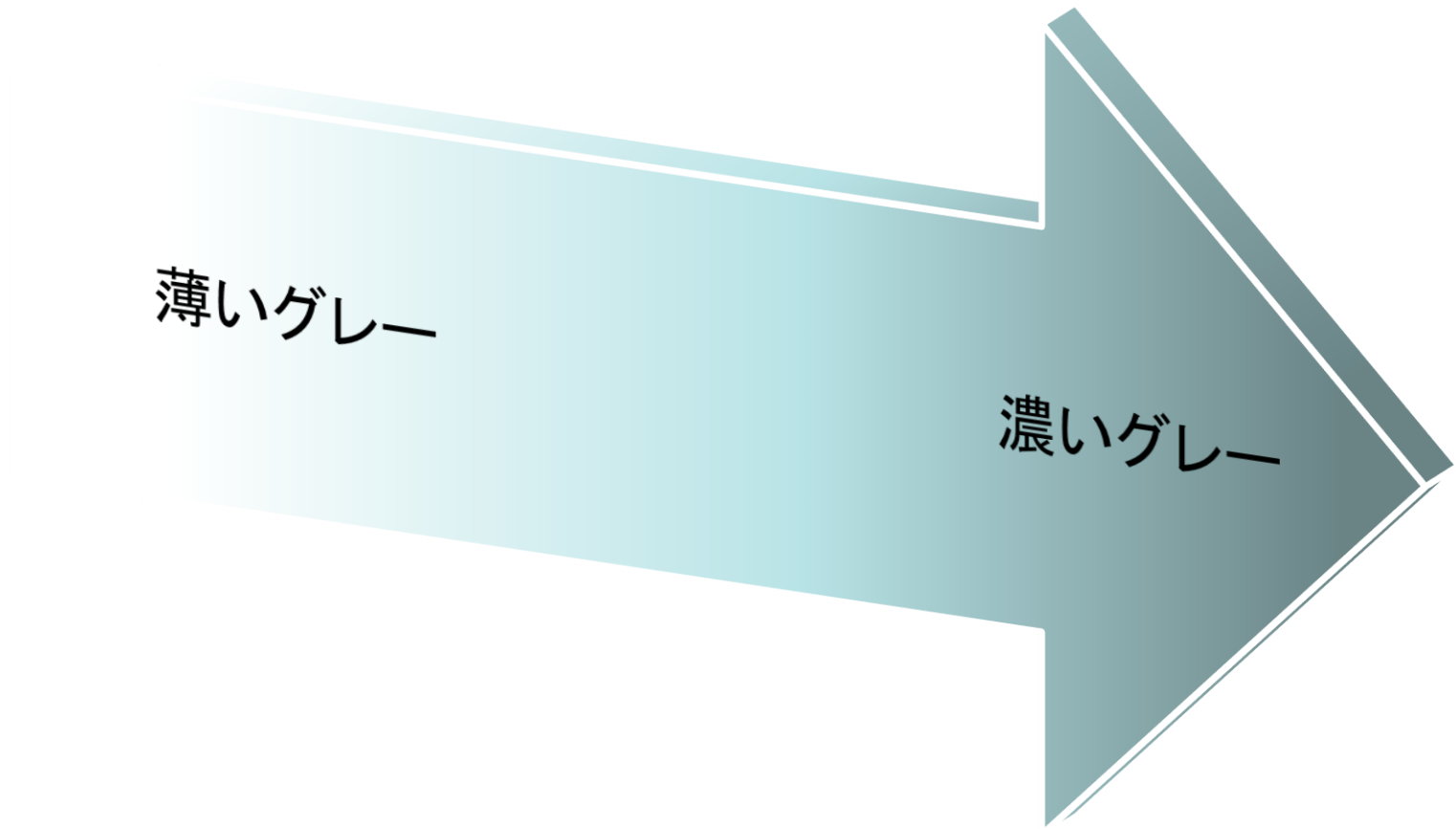
小さな出来事がエスカレートする理由

- 「言っても無駄」「言ったら不利益になる」という本人・支援者の意識
- 本人の意思表示が困難な特性
- 福祉現場の自由度の高さ
 - エスカレートを止める外的要因が少ない
 - ① 個々が「小さな出来事」を意識する（内的要因）
 - ② 現場レベルで共有する（外的要因）

「小さな出来事」とはなにか

薄いグレー

濃いグレー



常にここに戻る

障害者に対する虐待が障害者の尊厳を害するものであり、障害者の自立及び社会参加にとって障害者に対する虐待を防止することが極めて重大であること等に鑑み、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に対する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資することを目的とする。

尊厳とは何か

- 憲法13条(個人の尊厳)
 - すべての人は、**個人として尊重**される
 - **幸福追求権**

⇒ 一人の人として「尊重」しているか

⇒ 本人の幸福追求の支援をしているか

小さな出来事①

Aさんは部屋から食事の場所に行こうとしないので、少し強引に部屋から移動しました。周りから見たら、引きずっているように見えたかもしれません。

小さな出来事②

Bさんがなかなかイスに座ろうとしないので、両肩を上から押さえつけるように座らせました。その後も立ち上がろうとする度に座らせるようにしました。

小さな出来事③

Cさんは、いつも夕食時間を過ぎているのにゆっくり食べています。つい「もう時間ですよ。いらないなら下げますよ」と言ってしまったたり、食事介助のスピードを上げてしまいます。

小さな出来事④

Dさんは外出時に他人の家のインターホンをならそうとするので、そのたびに職員が後ろから抱きかかえるように抑えます。

小さな出来事⑤

他の方の支援中に、Eさんから「昨日いやなことがあった」と話しかけられました。

「今いそがしいからごめんなさいね～。ちょっとまっててくださいね～」と言ったまま、1日が過ぎてしまいました。

小さな出来事⑥

Fさんはお小遣いの大半を外部への電話（施設内の公衆電話の利用）に使います。

最近、電話の量が多いので、お小遣いを渡すタイミングを少し遅らせて、しばらく電話ができないうようにしてみました。

小さな出来事⑦

Gさんはなかなか水分を取られません。水分摂取のため、積極的に水を飲ませています。

一方、Hさんは水を飲み過ぎます。水道のところに行ったら飲まないように阻止しています。

小さな出来事⑧

さんは最近作業にあまり積極的に取り組んでくれません。

「給料もらえないですよ」「好きなもの買えなくなりますよ」などと言って作業を促しています。

小さな出来事⑨

Jさんは、居室だけではなく廊下でも裸になってしまいます。服を着なさいと言っても言うことをききません。最近では「風邪ひきますよ」と声をかけるだけです。

小さな出来事⑩

Kさんは最近不安定で、ほぼつきっきりで支援をしなければいけません。

そのことで他の人の支援が十分にできていません。

小さな出来事⑪

LさんはGHで生活していますが、最近近所の飲食店で仲の良くなった人から、5万円を貸して欲しいと言われ、どうしても貸してあげたい、と言っています。周りの人間としては止めたいので、「返ってこなかったらどうするの」などと言って誘導しています。

小さな出来事⑫

Mさんは車椅子を使用していますが、手にも障害があるため、施設での食事のときはいつも支援者が後ろ側からエプロンをしています。先日外食に行ったとき、いつものようにエプロンをしようとしたところ、怒って机の上の食事をひっくり返してしまいました。

小さな出来事⑬

Nさん（男性・40歳）は、家族からも他の職員からも「ゆうちゃん」と呼ばれています。

一方、上司からは「ちゃん付けはだめ。さん付けで呼んでください」と言われています。

小さな出来事⑭

〇さんはトイレでの支援が必要な方です。

〇さんがトイレに行ったときには、情報共有のため、「〇さんトイレに行ったよ～」と大きな声で話したり、離れた職員同士で「今、〇さんどこ？」「トイレだよ」というやり取りがされています。

小さな出来事⑮

ある職員は、Pさんの居室に何も言わずに入ります。

別の職員は、Pさんの居室に、3回ノックして「入りますね」と言ってから入ります。

小さな出来事（権利擁護の意識）
を共有する取組み

小さな出来事（権利擁護の意識）の共有

- 「共有」の目的は、現場の支援をよりよいものにする
- 「共有」の前提は、「意見は違って当たり前」「いろいろな意見がある」「意見を交わすことは当事者にとってプラスになる」ことの共有

意識を共有しやすい職場 ＝風通しのいい職場

- 相談できる職場
 - 指摘し合える職場
 - 評価し合える職場
 - 支え合える職場
 - 上司もこれを応援する職場(いろいろな考え方や価値観を受け止めてくれる職場)
- 受容を前提としたコミュニケーションの場

小さな出来事研修(例1)

➤ テーマ

- ・身近にある「小さな出来事」を出し合ってみましょう
- ・その「小さな出来事」について、より望ましい支援があるか、話し合ってみましょう

小さな出来事研修(例2)

➤ テーマ

- 1) 「さん」付けにしている事業所
あらためて、さん付けにする意味を考える
- 2) 「くん、ちゃん」「よびすて」「あだな」が混在する事業所
 - ・ さん付けにする意味、しない意味を考える
 - ・ 統一の必要はないか、変更の可能性はないか

小さな出来事研修(例3)

➤ テーマ

- ・身近にある「小さな出来事」を出し合ってみましょう
- ・「小さな出来事」について、具体的な目標を立ててみましょう

まとめ

- 虐待の要因は「意識」「環境」「専門性」
- 小さな出来事は「意識」の問題
- 小さな出来事を共有し、変更（より本人の尊厳に配慮した支援）について一緒に考える取り組みは、「環境」の改善、「専門性」の向上につながる